



子ども大学学生新聞

第8号
子ども大学
かわごえ新聞部

音にいのちをふきこむ「魔法」

漢那先生授業 初音ミクと「ふるさと」合唱

九月二二日(土)、尚美学園大学パス
トラル音楽ホールで、尚美学園大学研究
員の漢那拓也(かんな・たくや)先生に
よる授業「音にいのちをふきこむ『音楽
の魔法』」初音ミクと歌う里山のうた」
がありました。出席者は四年生一九人、
五年生四一人、六年生四五人、保護者六
七人、小さい子一五人でした。



宮本愛音記者撮影

一時間目は、初音ミクのことや、ボ
ーカロイドのこと、8ビートのことを教
えてくれました。

初音ミクとは、一〇代〜二〇代に人気
のあるキャラクターで、CGを使うバー
チャルシンガーです。

ボーカロイドとは、子音と母音、たと
えば「す」と「あ」をつなげると「さ
」になるように、音の波形をつなげるパ
ソコンのソフトのことです。

8ビートは、八個の音を一つのリズム
としてできています。それを繰り返しま
す。授業では、1〜8の中から好きな数
字を自分で三つ選び、漢那先生のかけ声
に合わせて、自分が選んだ数字の時に手
を叩いて、みんなでリズムを作りました。

(浅野璃子記者 〓 杉下小5年)
一時間目も、楽しいことをたくさんし
ました。

まず始めに、一時間目に作った8ビー
トのリズムを、特殊なマイクで録音して
リズムの合奏にしました。ゴミ箱をたた
いた音、拍手の音、ポ、ニヤ、ワツとい
う声、スチール缶に水を入れたものの音

シャーペンの芯(しん)の音を録音しま
した。

つぎに、作曲家・富田勲(とみた・い
さお)さんについて教えてくださいまし
た。富田勲さんは、「シンセサイザー」
という現実にはない音を作る機械で作曲
した人です。富田さんにとって、初音ミ
クは、ひ孫のような存在なのだそうす。

富田さんは、「シンセサイザー」延長線
上に、初音ミクがいると考えていると話
されました。

心象風景(しんしようふうけい)とは
空想の世界のことで、宮沢賢治の世界は
心象風景が描かれています。その宮沢賢
治の世界を、富田さんは音楽にしました。
生きてもなく、死んでもいないという
存在は、初音ミクにしかできないと、漢
那先生は言っていました。

最後に初音ミクと一緒に全員で「ふる
さと」を歌いました。とても楽しい授業
になって、よかったです。(河野真央記
者 〓 寺尾小6年)

漢那先生にインタビュー

「中学3年生はまた」

Q なぜ、授業にこのテーマを選んだの
ですか?

A 今の音楽や、ミクを紹介したかった
から。

Q 漢那さんは初音ミクに、何か曲を歌
わせたことがありますか?

A イーハトリーブ交響曲。

Q 子どものころの夢は何でしたか?

A サッカー選手になりたかったなあ。
スポーツが好きだったよ。でも、中
学に入ってから、パソコンで音楽
をつくるのが面白くなって、スポ

ーツをやらなくなった。

Q 初音ミク以外に、新キャラクターを
つくりたいんですか?

A つくりたいね。

Q 機材を全部そろえるのに、いくらか
かりますか?

A だいたい百万円くらい。安くそろえ
ようと思えば、十万円でもそろえら
れし、本格的にやれば数千万円はか
かります。

(斉藤和泉記者 〓 大塚小6年、宮本愛音
記者 〓 鶴ヶ島一小6年)

学生の授業感想

◇ やなぎこうすけ君 〓 ながくぼ小4年

Q 今回の講義の感想は?

A とても面白くて、良い勉強になりま
した。

かわひらまさき君 〓 霞ヶ関南小6年

Q 今回の講義の感想は?

A ミクがコンピューターでできてい
て、すごいと思いました。

(大和日菜記者 〓 星野学園小4年)

◇ 田中莉沙子さん 〓 青島小6年「初音ミ
クの歌や映像が、どのようにつくられて
いるのが、よくわかりました」

◇ 奥村由依香さん 〓 青島小6年「初音ミ
クの音程に合わせるの大変なんだな
と思いました」

(小島未来記者 〓 福原小5年)
◇ 飯塚理桜さん 〓 鶴ヶ島藤小6年

Q 今日の授業はどうでしたか?
A 最初はボカロ(ボーカロイド)が分
からなかったけれど、ボカロが分か
ってよかったです。
(十重田妃菜記者 〓 福原小5年)

☆記者の感想

◇土田真由香記者「山田小6年」私は前から初音ミクを知っていて、いろんな歌を聞いていました。初音ミクのボカロの曲を作るのは、とても大変だなと思いました。声をどういうふうに出すかなということも分かったので、とても楽しかったです」

◇小島未来記者「初音ミクの歌をつくるのに、こんなに苦労しているとは初めて知りました。もつと初音ミクのことを知りたくなりました」

◇十重田妃菜記者「初音ミクの声や歌ができるまでに、どんなことをやっているのかが分かって良かったです。最後に初音ミクと歌ったのが楽しかったです」

新ホールについて学長へ聞く

漢那拓也さんの授業に使った新しいホールについて、会場に来ていた尚美学園大学の松田義幸学長に直撃インタビューをしました。

Q このホールは、いつ完成しましたか？

A 今年の七月一日です。

Q 座席数はいくつですか？

A 四〇四席です。

Q 工事を始めたのはいつですか？

A 約一年四カ月前です。

Q この建築費はいくらですか？

A 約十億円です。(宮本愛音記者)

訂正 第7号で広島平和記念式典に参加した飯塚椋さんの学校を鶴ヶ島一小としましたが、鶴ヶ島藤小の間違いでしたので、訂正しております。

ペーパー、ペットボトル、レジ袋の3Rを減らそう

「資源のむだ使いはやめよう」

九月一日(土)、川越第一小学校体育館で富士通環境事業部の畠山義彦さん



宮本記者写す

う言葉が出てきました。まあ資源がなくなってしまう、減っているということですね。石油はあと四一年、天然ガスは六九年、石炭は一五五年、ウランは八五年でなくなってしまうと言われています。それを防ぐために3Rがあります。リデュース…ごみを減らす、リユース…くり返して使う、リサイクル…資源として再利用、です。

その後、パソコンを分解しながら、素材について考えました。(斉藤和泉記者) レジ袋三百億枚を使う

パソコンを分解する前に、地球の環境について教えてくださいました。

地球は、太陽から一億五〇〇〇キロメートル離れていて、二四時間二六五五、ちようど良い気候なので、「奇跡の星」と言われているそうです。そんな地球ですが、環境問題の悪化で、いま人間に危機が迫っています、このままだと、人間は地球に住めなくなり



宮本記者写す

その環境問題は、人間の暮らし方に問題がある

そうです。日本で一年に使われるレジ袋

は、三〇〇億枚以上で、積み上げるとスペースシャトルの飛行高度(約五〇〇キロメートル)になります。また、ペットボトルは一年に二五〇億本以上使われます。

畠山さんにインタビュー

Q なぜ、このテーマを授業に選んだのですか？

A 環境問題について知ってもらいたかったからです。詳しくいうと、一つ目は地球温暖化防止、二つ目は生物多様性の保全、三つ目は資源の枯渇を防ぐ。

Q なぜパソコンを分解しようと思ったのですか？

A 富士通でパソコンを作っているのでも、パソコンを通して、3Rについて、みんなに教えようと思ったからです。(宮本愛音記者)

親子狂言教室に参加

ワークショップ「親子で学ぶ古典芸能」親子狂言教室が一〇月六日(日)午後二時から川越八幡宮参集殿でありました。子ども大学かわごえの学生二三人、八幡宮募集の小学生二人、保護者四〇人が参加しました。先生は狂言師・深田博治さん。教材になったのは「柿山伏」。地域によっては小学五年の教科書で学びます。内容は①狂言って何? 狂言

「柿山伏」の実演、③柿山伏のセリフ、動きに挑戦、④茸の動きに挑戦、⑤大笑い。実際に体を動かしながら、狂言を楽しく、学びました。(松本ゆたか)